

3月のメッセージ

辰年が明けて、早くも3月。震災から1年になります。

「復興」には未だに、遠い道。

家族の元に帰る事が出来たペット。新たな家族として、迎えられたペット。

そして、手を差し伸べられるのを待つペット。被災ペットへの支えは、これからも続きます。

見聞きする小さな甦り、希望の光が少しずつ大きくなって行くような中に、救われる思いも致します。

が、震災の事を忘れる事無く、現状をしっかりと見つめ、受け止める事の大切さを改めて、強く思います。

何気なく手にする品に「東北」の文字を見る時、思いを馳せる。これも、「支えの形」かもしれません。

震災で延期になりました「**ジャパンペットフェア**」が、**3月29日から4月1日まで「幕張メッセ」にて開催されます。**

今年のテーマは「**見つけよう！ペットと暮らす喜びを！**」です。

弊社の設立者は、12月のメッセージでお伝えいたしましたが、長い闘病生活を送りました。

その間、会社として商品企画開発、商品化に向けて、ペットの協力を必要いたしました。

本来、動物は好きな私ですが、仕事として関わる事は予想もしていなかった事です。

思いがけない人生転換の中で、ペットと過ごし、助けられた事は、それも思いがけない事でした。

そして、我が家のペットは「ペット」の立場を超えて、「スタッフ」的な立場でもありました。

商品化に向けて、最終的に「ペット」でのテストをいたします。例え、シャンプーが嫌いでも、

社命として、私の一声で限りなく従順振りを示して、テストに臨みました。

思い出のスタッフのご紹介

***スタッフNO-1・ねこの「シャンプリンちゃん」(元ノラ・女の子)**

弊社設立1年目に病に倒れた夫の会社を引き継いで、2か月程経った頃、住まいの周りで、

子猫が「ミャーミャー！」と、声の限りに鳴きながら、ウロウロする姿を見かけるようになりました。

春、まだ浅く、空腹と寒さでなんとも心細げなその声に、何処にいるのかと、つい私も足を止めて、

声の方向を探しました。が姿は見えず、、、。その内、学校から帰った子供達が、調達したダンボール箱

に子猫をいれ、パン・煮干しを与えながら、動物嫌いらしき人を避け、心を許せそうな人に向かって「おばちゃん、この子、飼って上げて！」と声を掛け、口ぐちに猫のチャームポイントを、一言添えて頼んでいました。

勿論、私にも声掛けは怠りませんでした。が、私は、介護、慣れない仕事の事で、心のゆとりもありませんでした。飼えない！「ごめんなさいね」私は、断りました。

子供達と猫の姿も、春の終わりには見えなくなりました。

どうしたのか、と心配していた事すら忘れていた秋近く、再び子猫、いや、成長したあの猫が現れました。

しかも、私の靴音を聞きつけ、足元に飛び出してきたのです。

夫の体の事、前に進めない仕事に疲れ切っていた私は、温かく柔らかな毛並みに何か「ホッ！」とするものを感じ、「ミャー！」と鳴いた時、抱き上げました。

近所の動物好きの奥様が「芹澤さんにお任せでは、申し訳が無い」と、避妊手術の一部にと

6千円をお届下さり、術後、晴れて我が家の一員となりました。名前は弊社シャンプー剤の名「シャンプリン」、「シャンプリンちゃん」と命名いたしました。以来、元ノラの立場を投げ捨て、生まれながらの「シンデレラ」

気取りで、14年を過ごしました。

*スタッフNO-2 ・うさぎの「うさ子さん」 スタッフNO-3 ・うさぎの「ラビちゃん」

スタッフNO-4 ・うさぎの「レイちゃん」

「うさぎ専用」シャンプー剤「シャンプリン」をはじめ、「うさぎ専用」シリーズ誕生の立役者達。です。

「うさ子さん」は女の子らしい、おっとりとした性格。「目」の表情が魅力的（流し目調で名前を呼ばれると見る）学ぶべきところあり。でした。「ラビちゃん」は諸事情により、中性の立場となりました。その為か、ブルーの瞳は冷めて哲学者を思わせる雰囲気。そして兎角、恨み心か反抗的。でした。

「レイちゃん」は、首周りに白いレイを掛けたような気が強い、少し神経質な子でした。

*スタッフNO-5 ・ゴールデンレトリバーの「つばさくん」

あるイベント会場で、目と目が合って、「飼いたい！」から「飼う！」の決定をした瞬間でした。

言葉を失った夫の淋しさを「つばさくん」が補ってくれたら、という気持ちもありました。

「コロ、コロ」の姿はアツという間になくなり、凜々しい姿と「ワン！」の一声は、さすが！

その反面、よだれダラダラの甘えん坊。このアンバランスが可愛いさでもありました。

*スタッフNO-6 ハムスター・ジャンガリアンの「ぼくちゃん」

いつも忙しげの動きまわる楽しい「ぼくちゃん」でした。

このスタッフ達との生活のにぎやかな事。猫の「シャンプリンちゃん」は、次々にやって来る見知らぬ対象物に「フー！ハー！」目は三白眼。ネコパンチで臨戦体制。先輩として、「デン！」と構えてはられないようでした。私が、他の子に関わっていると、「ジーツ」と見ていて、その後、私に近寄り「スリスリ」「私をお忘れなく！」の様子でした。

夫にスタッフが、よく見えるようにベッドの高さを調節しました。

ベッドの上に、うさぎを乗せる。夫の周りを「ピョン！ピョン！」跳ねやすいのか、うさぎが踊るように「ピョン！ピョン！スピョピョン！」夫はびっくり。「すごいね！」「いいね！」体の自由が奪われた夫にとって、うさぎの動きが、一層、素晴らしい事に思えたのでしょう。

夫の手の上に、ハムスターの「ぼくちゃん」を乗せてみました。じっと、うずくまった「ぼくちゃん」の背中に夫は左人差し指を、そっと当てました。そして「おー、すごいね、ほら、ほら」と、私に触ってみて。と差し出しました。私は、夫が触れていた同じところに指を当ててみました。伝わってきました。心臓の鼓動です。「ね、ね、すごいよ」夫は不自由な右手で涙を拭きました。私は「本当」と言って、「小さくても同じ、一生懸命なのね」「頑張らなくちゃね、みんな」それ以上、言葉になりませんでした。

夫は、ベッド生活になってからは、全身介護となりました。私が仕事で出かけている時は、ヘルパーさんか、娘が担当してくれました。

全身介護ですから、人の手にお任せ、頼る。事です。

そこで「つばさくん」の勘違いが起きました。夫に食事介助をしている私の側で、いつも、じっと見ていた「つばさくん」。夫が声を掛けても、知らん振り。近寄っても、横目でちょっと見る。

私は、何かおかしい。と、思いました。ある日、夫の呼びかけに近寄った「つばさくん」は、大きな声で「ワン！」夫に向かって吠えたのです。夫もびっくり。私は、もっとびっくり。

「つばさくん！」私は大きな声で、叱りました。

そして、私は気が付きました。立場の順位を「つばさくん」は勘違いし始めたのです。一番は、私。次、娘、ヘルパーさん。そして「つばさくん」最後が、夫。

私をはじめ、皆に支えられている夫を、何も出来ない人。「つばさくん」の方が上と、勘違いしたのでしょうか。当初、どうしたら良いのかと思いましたが、いつもと変わりなく夫と接していました。「つばさくん」は、相変わらず、その様子を見ていました。いつの間にか、夫に威張る事も無くなり、ベッドに前足を掛けて夫の顔を見たり、手に鼻先を当ててみたりしていました。夫は、「よし、よし」と応えておりました。

疲れて帰った私は「チュバサクーン」と言って、横たわる「つばさくん」に、体を委ねました。

そんな私を、動く事もなく只、舌を出して「ハーハー」と、受け止めてくれていました。

私にとって、最高のリラックスタイム。でした。

私のスタッフは、「アニマルセラピーの先駆け」だったのかもしれませんが。

今、一緒に過ごした皆を思い出しながら、書いております。改めて、楽しかった事と共に、感謝の思いが湧いて参ります。

夫が旅立った後、皆、後を追って逝きました。今頃は、夫が淋しくない様に皆が寄り添ってくれている事でしょう。

私の手元には、皆のブラッシングをした時の「抜け毛」が、瓶に入れられて残っております。

その残されたものに、そっと触れてみます。それぞれの感触と共に、変わらない温もりと愛おしさがこみあげて参ります。

思いがけない事で、ペットとの出会いと生活を経験いたしました。それは、私の人生のひと時の事でしたが、楽しく、心豊かな時と、深く大切な思い出を与えてくれました。

現在は、ペットと過ごせる環境の住まいではありませんが、これからも、私のスタッフ皆を忘れる事なく、ペットに、寄り添う心を持ち続けて参ります。

株式会社 アドバックス 芹澤陽代

